

平成23年度白川村一般会計及び特別会計の歳入
歳出決算に係る主要な施策の成果について

地方自治法(昭和22年法律第67号)第233条第5項の規定に
より、平成23年度白川村一般会計及び特別会計の歳入歳出決算に
係る主要な施策の成果を説明する書類を次のとおり提出する。

平成24年9月20日

大野郡白川村長 成原 茂

平成23年度予算執行の基本方針

平成23年度は、3.11東日本大震災の発生に伴う巨大津波により多くの尊い人命を失った深い悲しみの中で、復興に向けた取り組みが進められました。本村は、自立した財政運営を続け、村民が安心して財政運営を任せていただけるよう「第4次白川村行政改革大綱（自立推進のための集中改革プラン）」を遂行し、「村民との協働による村づくり」「村民にわかりやすい行政運営の推進」「堅実で安定した財政運営の施行」を基本方針として、より積極的な地域づくり事業の推進を図り、村民の安心・安全を確保した豊かな生活の実現に努め、課題となっている過疎化対策、少子高齢化対策、景気雇用対策など、村民の一層の福祉の向上と、互いに思いやりのある、誰もが憧れを抱く心のふるさと「わたくしたちの日本一美しい村」を基本目標とした、第6次総合計画実施の初年度とし計画を反映した予算編成をいたしました。

また、昨年、4月末より村長の任に就かせていただき、私が村民と約束をさせていただきました「いつまでも住み続けたい村へ」の実現に向け、3つの柱である「後押し行政」「母の目行政」「孫の手行政」を掲げ、「食品工場等の誘致と6次産業化による白川郷ブランドづくりと雇用の確保」や、「3人目から学校給食費と保育料全額免除」「保育受け入れ時間延長や土日保育などの充実」「特別な支援が必要な子ども達への教育の充実」そして、「村直営福祉バス等を玄関から玄関へ運行し、高齢者が一人でも買い物や通院で村内移動ができる環境整備」「郡上方面への福祉バスの充実」など、早急に対処すべきものから実現に向けての補正予算を編成させていただきました、行政運営の舵を取ってまいりました。

それでは、平成 23 年度白川村決算の概要についてご説明申し上げます。

一般会計の歳入決算額は、対前年度比 5 億 715 万円減額、14.6%減の 29 億 6,195 万円になりました。7 つの特別会計の歳入合計額 12 億 2,080 万円を合わせた村の歳入総額は、対前年度比 5 億 9,301 万円減額、11.4%減の 41 億 8,275 万円です。

これに対し、一般会計の歳出決算額は、対前年度比 5 億 1,898 万円減額、15.1%減の 29 億 1,243 万円になりました。特別会計歳出合計 11 億 7,274 万円を合わせた村の歳出総額は、対前年度比 5 億 5,730 万円減額、12.0%減の 40 億 8,520 万円です。

歳入歳出ともに前年度よりも 1 割強の減額となりましたが、平成 21 年度より 2 ヶ年事業にて進めてまいりました統合小学校建設事業や、中学校大規模改修事業など大規模公共事業の完成による縮小が主な要因であります。

平成 23 年度の一般会計繰越明許費はありませんでした。

よって、歳入歳出差し引き額 4,952 万円から、翌年度へ繰り越す一般財源を必要としないため、実質収支額は、同じく 4,952 万円で、標準財政規模からの割合から算出する、実質収支比率はやや低めの 2.9%となっています。財政調整基金を 1 億 2,000 万円積み立てていますので、実質単年度収支は 1 億 4,691 万円となり、収支は安定しているといえます。

一般会計の歳入のうち、最も大きなものは「地方交付税」の 10 億 1,016 万円で、対前年度比 1,932 万円増額、2.0%増、歳入全体の 34.1%を占めています。地方交付税のうち「普通交付税」は、対前年度比 3,138 万円増額、3.7%増の 8 億 7,558 万円です。これ

は、基準財政需要額に算入される経費のうち、「地域経済・雇用対策費」として4億808万円が算入されています。一方、基準財政収入額では、村税のうち減価償却等の減収が交付税の増額の要因となっています。

2番目に大きなものは「村税」の7億7,490万円で、対前年度比2,202万円減額、2.8%減、歳入全体の26.2%を占めています。村税の内、大規模償却資産税が最も大きく4億8,881万円で、対前年度比1,975万円減額、4.1%減となっています。

「国庫支出金」及び「県支出金」は、あわせて、対前年度比2億1,417万円減額、40.0%減の3億2,093万円です。主な内容は、道路整備事業等の社会資本整備総合交付金、荻町伝統的建造物群保存事業補助金の他に、繰越事業の地域活性化・きめ細かな交付金などとなりました。一方、減額の主な内容は、統合小学校建設事業及び中学校大規模改修事業が完了したことによる補助金が減額されたことが主な要因となりました。

「繰入金」は、対前年度比1億4,217万円増額、196.2%増、2億1,463万円となり、収入全体の7.2%になりました。主な内容は、減債基金8,000万円、世界遺産合掌造り集落保存基金5,962万円、小中学校基金3,190万円、地域活性化・光をそそぐ基金414万円などの基金を繰り入れました。

「諸収入」は、対前年度比3,460万円減額、23.5%減、1億1,245万円となり、収入全体の3.8%になりました。主な内容は、白山林道料金徴収等管理事業5,911万円、中小企業融資預託金回収金3,000万円になりました。

「村債」は、対前年度比 3 億 6,267 万円減額、59.0%減、2 億 5,191 万円となり、収入全体の 8.5%になりました。主な内容は、臨時財政対策債 1 億 2,211 万円、過疎対策事業債ハード事業によります村道戸ヶ野島線御番所橋改修事業債など 7,180 万円、同じく、過疎対策事業債ソフト事業によりますマイクロバス運行業務委託事業債など 3,500 万円。また、辺地対策事業債によります平瀬幹線舗装補修工事事業債など 2,300 万円になりました。

その他、歳入項目において「分担金及び負担金」は、常備消防職員派遣負担金 671 万円皆増により、対前年度比 44.5%増、1,606 万円になりました。「使用料及び手数料」は、せせらぎ公園施設使用料が対前年度比 1,696 万円減額、25.6%減、4,916 万円により、対前年度比 1,710 万円減額、22.0%減、6,062 万円となりました。

以上が、平成 23 年度一般会計歳入の主な概要です。これらの収入により、行政運営、並びに第 6 次総合計画に基づく重点施策を実施し一定の成果を得ることができました。

つづきまして、一般会計歳出のうち、実施した主な事業等について説明申し上げます。

平成 23 年度の歳出における投資的経費は、前年度に実施しました統合小学校建築工事事業 2 億 8,085 万円及び、中学校大規模改修事業 2 億 3,306 万円が完了したことなどにより 5 億 4,078 万円減額、56.0%減、4 億 2,405 万円となりました。このうち、補助事業に係る主な事業は、荻町伝統的建造物群保存修理事業に

係る補助金事業 5,299 万円を支出しました。この他、村道鳩谷馬狩線改修工事事業に 4,357 万円、地域資源活用総合交流促進施設整備事業に 2,176 万円などに支出しました。村単独による主な事業は、スクールバス車庫新築工事事業 2,792 万円、村道戸ヶ野島線御番所橋改修工事事業 1,641 万円などを支出しました。

この他の歳出につきましては、第 6 次総合計画の政策の項目に沿ってご説明申し上げます。

「美しい自然を守り活かす村づくり」として、せん孔性害虫駆除対策を進めるため、森林整備加速化林業再生事業に 1,397 万円、イノシシやカラスなどから森林や農地を守るため鳥獣被害防止総合支援事業に 1,466 万円、全額国庫補助金を活用して実施いたしました。美しい沿道景観づくりのために、継続的に花街道・花いっぱい運動推進事業 510 万円を支出しました。この他、公有林整備事業、公団造林事業、間伐事業補助金、環境保全監視委員事業等を実施しました。

「住みやすい生活環境の整備」として、し尿処理に 539 万円を支出しました。塵芥処理委託料 1,235 万円を負担しました。これら経費の削減に向けた対策として、一般廃棄物処理実施計画の策定や、家庭用生ごみ処理機購入費の一部補助など、ゴミの再資源化並びに減量化対策を進めています。また、不法投棄対策として、廃棄物監視モニターや県環境課と連携しパトロールを強化するなど対策に努めました。

「次世代のための地球環境を守る」として、環境保全意識の醸成を図るためトヨタ白川郷自然学校に協力をいただき、「ふるさと博士」認定制度実施に向け取り組みを進めました。

「魅力を高める地域基盤づくり」として、村道木谷稗田線改良工事事業 2,681 万円、村道荻町下コソ線法面改良工事事業 1,738 万円、村道鳩谷馬狩線法面改良工事事業 3,182 万円、平瀬幹線舗装補修工事事業 1,822 万円、前年度繰越事業であります村道鳩谷馬狩線改修工事事業 3,910 万円、平瀬地区街なみ環境整備工事事業 1,255 万円などを行いました。

生活路線の維持を目的として、加越能バス運行経費 339 万円、濃飛バス運行補助経費 89 万円を支出しました。また、郡上市にあります(株)白鳥交通が白川～郡上八幡間の運行が始まり、郡上市方面への公共交通の確保がなされました。

「暮らしを支える生活基盤づくり」として、簡易水道特別会計へ 2,575 万円、下水道特別会計へ 4 億 4,934 万円を繰出し、上下水道の整備と維持管理を進めました。

「安心・安全な村づくり」として、冒頭に申し上げました東日本大震災をはじめ、紀伊半島大水害など未曾有の被害が国内で発生しており、既存の防災計画を見直しに 200 万円を支出し、全面改定を行いました。また、老朽化した防災行政無線を更新し、J-アラートシステムに対応したデジタル無線に更新をするための設計監理に 599 万円を支出しました。

常備消防業務負担金として 9,132 万円を支出しています。非常備消防に係る小型動力ポンプを中部 6 班、軽積載車を中部 4 班、積載車を南部 3 班へそれぞれ更新するために、1,084 万円を支出しました。平成 26 年度本村にて開催される県消防操法大会に向けて、準備費用として今後、毎年 500 万円を基金に積み立てます。

冬期間の生活道路確保のための除雪業務委託事業は、降雪期間が長く豪雪となったため 1 億 1,540 万円と例年に比べて費用が増加しました。

「健康な村民で賑わう村づくり」として、住民の基本健診やがん検診などを含めた住民健康診査委託事業 213 万円をはじめ、インフルエンザ予防接種、子宮頸がんワクチン、小児肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチンの接種を進めました。また、筋力トレーニング事業 164 万円を支出するなど継続した予防事業を進めました。

「安心できる医療の村づくり」として、久美愛厚生病院移転新築工事に伴い、本村負担金 700 万円を支出しました。福祉医療費助成事業では、県単福祉医療 948 万円に加え、村単独福祉医療 288 万円を支出し、児童医療事業の拡充を図ることにより子育て支援を行いました。また、人工透析者移動支援事業 295 万円を支出しました。

「ぬくもりのある福祉の村づくり」として、東日本大震災により被災された地域支援関連事業に 584 万円を支出しました。この他にも、村民の皆さまより物資や支援金をお寄せいただきました。また、多くの方が被災地へ復興ボランティアにご参加いただきました。

温かいご支援、ご協力を賜りました村民の皆さまに、この場をお借りしまして、あらためて、厚くお礼を申し上げます。

社会福祉法人愛知慈恵会の協力による高齢者福祉事業として、生きがい支援活動通所事業 460 万円、ホームヘルプサービス事業 340 万円、居宅介護支援事業所運営委託事業 180 万円を支出しました。

特別支援学級の児童・生徒へ就学支援事業として、住民生活に光をそそぐ交付金基金を活用し 415 万円を支出しました。

「世界遺産の村づくり」として、荻町重要伝統的建造物群保存修理事業 5,299 万円を支出しました。また、同地区に配備されています放水銃格納庫の老朽化に伴い、改修工事事業 3,206 万円を支出しました。荻町集落の自然環境を守る会結成 40 周年記念事業と共に伝建地区選定 35 周年記念事業の開催に伴う費用 106 万円を支出しました。

農山漁村活性化プロジェクト支援事業により白川村緑地資源開発公社が行う旧浅野家改修事業 1,391 万円を支出し、友好都市の図書や民具の展示など交流拠点の役割や、木工等の体験ができる施設に改修しました。

白川村民謡保存連絡協議会や荻町獅子舞保存会が中心となり、開催された踊り街道フェスティバル事業 1,332 万円を支出しました。

「人が行き交う村づくり」及び「質の高い観光業の育成」では、国内の観光は東日本大震災、福島原発の事故等の影響により、海外からの観光客数が激減しました。本村においても観光業を中心として、かつて経験したことがない大きな打撃を受けました。村では、県や関係団体と連携して国内外の誘客に向けた多くの観光イベントに参加し、村のPRに努めました。また、観光業者の運転資金の確保を行う為、利子補給を 11 件、66 万円を支出し対策を行いました。

世界遺産をはじめ、地域文化の保存と活用の調和を図るために策定を進めています観光計画策定事業に 353 万円を支出しました。

「自立した農林水産業の村づくり」として、ぎふグリーン農業整備事業 388 万円を支出し、白川村農産物生産組合が行う農業機械購入費用を補助しました。県単林道改良事業 120 万円により、牛首線改良工事を行いました。その他、林道修繕事業を 6 件、あわせて 200 万円を支出しました。

「地域経済を支える産業の発展」として、新産業創出及び企業誘致を積極的に進めるために 464 万円を支出しました。本村にとって、景観等への影響が少なく持続可能な企業進出を目指し、現段階において3件の具体的な話し合いを進めました。

普通建設事業は件数並びに金額共に減少し、事業内容も、改修や改良事業が主なものとなっています。地域インフラの整備を積極的に進めるために、先に述べましたとおり、社会資本総合整備事業など、財源を伴う公共事業を優先的に進めました。

白川村商工業振興資金預託金 3,000 万円、白川村商工会をとおして貸付を行いました。

「新村民と現村民の定住促進」について、若者等就職者通勤助成事業を新たに創設し 145 万円、対象者 8 名に支出しました。地域振興定住対策特別基金を活用し、地域振興定住対策事業 352 万円、11 件に支出しました。

「親と子が共に育つ環境づくり」として、結婚支援事業に 50 万円を支出し、村内独身者を対象に、村内外の独身女性と交流会を開催しました。旧学校下検討委員会による学校跡地利活用をテーマに、児童公園など誰でも気軽に集える場について検討いただきました。

就学児童年齢前の子どもを抱える保護者のニーズに対応し、保育受け入れ時間の延長や、土曜保育などを新たに実施したことにより、日平均6名、年間286名の利用がありました。また、園児の給食主食費の無料化を進めました。

保育園入園前の児童をもつ保護者を対象とした、乳幼児学級の開催、保育園父母の会を対象とした幼児家庭教育学級の開催、小学校及び中学生をもつ保護者を対象とした小中家庭教育学級の開催など、子育てについて支援する取り組みを行いました。

特別支援教育就学奨励給付金 80 万円を支出し支援しました。

「個性ある子どもたちを育む学校づくり」として、南部地区内児童・生徒輸送車両を格納するためのスクールバス車庫建設事業 2,711 万円、白川中学校海外研修補助事業 731 万円を支出しています。

小中一貫教育について、平成 24 年度本格実施に向け「心豊かで、たくましく、ひとりだちする子の育成」を基本目標として取り組みました。全国的にみても前例の少ない取り組みであることから、小中それぞれの校長先生をはじめ、教職員には負担も多いと思いますが、新たな教育の道を開くつもりでご努力いただきたいと思います。

また、子ども会活動についても「ひとりだちする子」を目標としてジュニアリーダー育成のための研修実施を行い、ふれあい雪上運動会の企画運営を行うなど、新たな取り組みを支援しました。

「生涯学び続けられる環境づくり」として、高山中日文化センターと連携し4講座5教室の生涯学習講座開催経費62万円、ジュニアスポーツ活動支援事業80万円をそれぞれ支出しました。

「結の心で助け合う村づくり」として、平瀬温泉を主体に南部地域の活性化を図るため、白山国立公園指定50周年記念事業279万円、白山国立公園整備事業117万円、白弓スキー場特別会計繰出金1,338万円を支出しました。旧学校下検討委員会を設立し、旧小学校跡地を活用した地域活性化事業について検討をいただきました。

「村民全員で築く村民参加の村づくり」として、公約に掲げました村長カフェを全20回開催しました。特別職による地域座談会を全6回開催させていただき、村民のおひとりおひとりからご意見をいただきました。

村のホームページにつきましては、質やデザイン、内容など、村内外からのご批判をいただくこともあることから、平成24年度にホームページ改修に向けた対策会議を設置しました。広報しらかわ印刷製本費309万円を支出し、村民皆さまにご覧いただけるよう内容の充実を図り、読みやすいデザインに努めました。

「信頼される共同の役場づくり」として、行政運営の強化を図るため、平成18年度より空席となっておりました副村長を任命させていただきました。

村の社会経済情勢の変化に対応した、簡素にして効率的な村政の実現を推進するにあたり、村民や有識者の意見を反映するため、白川村行政改革懇談会を設立し第5次行政改革大綱を策定いたしました。同懇談会より「白川村行政改革に関する提言」を同懇談会長川田裕氏よりご提言いただきました。ご提

言をいただきました「自立推進のための意識改革」をはじめ、5 つの項目を達成すべく、職員と共に一丸となって取り組んでまいります。

つづいて、特別会計の主な事業を説明申し上げます。

特別会計では、国民健康保険特別会計直診勘定において、X線画像診断装置 1 台 297 万円を購入し、平瀬診療所に設置し医療診断が改善されました。

簡易水道特別会計において、繰越事業である小白川水源さく井工事事業 400 万円を支出し、地下水調査を実施しました。また、小白川取水施設新設工事事業 893 万円を支出し、小白川地区の安定給水を実施しました。大郷及び牧地区のろ過池の砂洗浄及び入れ替え事業 978 万円を支出し、ろ過能力の向上により安定した濁度の低い配水の供給が可能となりました。白川村水道台帳システム作成業務 399 万円により、白川村簡易水道台帳を電子化し、パソコン上で閲覧、検索、集計が容易に行うことが可能となりました。

公共下水道特別会計において、利率の高い起債を保有し財政的に負担となっていることから、一般会計繰入金により繰上償還 3 億 1,357 万円を実施しました。

他の特別会計では、特に大きな事業はありませんでした。

以上の事業等の執行によって、第 6 次総合計画に掲げられた政策の達成及び取組に努めてまいりました。これらの事業は、内容を精査し、緊急性が高く、大きな効果を発揮するものを優先的に実施しました。

つづいて、一般会計から特別会計への繰出金についてご報告申し上げます。

繰出し金の金額の多い順に、公共下水道特別会計へ 4 億 4,934 万円、温泉開発特別会計へ 9,474 万円、介護保険特別会計事業勘定へ 2,997 万円、簡易水道特別会計へ 2,575 万円、国民健康保険特別会計直診勘定へ 1,845 万円、白弓スキー場特別会計へ 1,338 万円、国民健康保険特別会計事業勘定へ 1,065 万円、後期高齢者医療特別会計へ 665 万円となっています。なお、介護保険特別会計サービス事業勘定への繰出金はありませんでした。

これらの繰出金の総額は、対前年度比 1 億 6,139 万円増額、33.1%増の 6 億 4,892 万円となっています。

特別会計は、独立採算の趣旨に鑑み、公共性を保ちながらも民間経営の手法を取り入れるなどして、改革に取り組み、収益性の向上を図っていきたいと考えております。

つづいて、借入金及び基金の状況についてご説明申し上げます。

平成23年度末現在における一般会計の借入金現在高は、28億 2,545 万円となっています。公共下水道特別会計が 6 億 1,722 万円、簡易水道特別会計が 4 億 6,762 万円、温泉開発特別会計が 2 億 1,753 万円、白弓スキー場特別会計が 2,052 万円、国民健康保険特別会計直診勘定が 1,594 万円でした。

一般会計と特別会計をあわせた村の借入金現在高の合計額は 41 億 6,427 万円となり、前年度末現在高に比べ 4 億 2,300 万円減額となりました。

村の基金残高は、一般会計と特別会計をあわせた合計額が、対前年度比 5,853 万円減額、2.6%減の 22 億 2,347 万円となりました。

その内訳としましては、財政調整基金が 1 億 2,000 万円増額の 12 億 4,000 万円。減債基金は、8,000 万円減額の 2 億 2,000 万円。その他特定目的基金

は、8,585万円減額の5億9,760万円。また、定額運用基金が3,300万円。特別会計にかかる積立基金は1,268万円減額の1億3,287万円となっています。

最後に、財政健全化指標のうち、「実質公債費比率」が前年度比5.6ポイント改善し7.8%となりました。平成20年度以降、起債の抑制に努めるとともに、繰上償還を積極的に実施したことにより大幅に改善が図られました。今後においても、健全財政の維持に努めてまいります。

以上をもちまして、平成23年度白川村一般会計及び特別会計の歳入歳出決算に係る主要な施策の成果について報告を終わらせていただきます。

終わりにあたり、この白川村がいつまでも住み続けたい村とさせていただき、村民一人ひとりが元気で、豊かに、安心して、将来の夢を見ることができるよう、今後も、健全かつ堅実な自治体運営の推進に努めてまいりますので、村民の皆さまの村づくりに対するご理解とご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。